

広見にきれいな川を絶対！増やすKZF運動
**広見川浄化活動から
 広がる、地域づくり
 ～環境づくり、人づくり、地域づくり～**



河添 晋悟
 愛媛県立北宇和高等学校

環境教育が生徒を変える

広見川にて

「環境教育は、人間教育であると思う。2年間の環境教育で生徒は見違えるほど成長する。問題解決能力を身につけ、どんな新しい対処法を考える。川をきれいにするにしても、大勢の人との輪が必要。それには、知識だけでなく多くの人に訴えていくコミュニケーション能力“人間力”が欠かせない。学校の成績だけでは分からない能力が伸びる。環境教育には、その様な力がある。」私は生徒とともに環境活動に参加して、こう実感している。

**地域環境を
 なんとかしたい…**

環境教育の一環として、水質浄化の研究が始まったのは、2003年のことだ。



パックテストによる水質調査

班で話し合い、農業用水として利用している広見川の水質を調べた。

きっかけは、「水質の悪化でイチゴ等の野菜や花の生育が良くない。それを解決する研究をして欲しい。」との地域からの声だ。そこで、本校生産食料科草花専攻

広見川は、清流・四万十川の支流の一つだが、流域は農地帯だけに農・畜産排水が流れ込む。また、他の四万十川支流に比べて人口密度が高く、窒素やリン酸が多い生活排水も広見川を汚した。そのため、広見川は四万十川支流中、最も汚染度が高いと言われている。ならば、広見川をなんとかしようと思ったのが、「きれいな川（K）絶対（Z）ふやす（F）」略して、KZF活動だ。着実に歩み続け、今では、その成果が高く評価され、今年4月には、日本を代表する顕彰制度「地球環境大賞

の環境地域貢献賞」を受賞するなど、その思いは、少しずつ地域に浸透している。

農業高校生として地域にできること

北宇和高校は、豊かな自然に囲まれた鬼北と呼ばれる南予の中山間地域に位置しており、普通科、生産食料科からなる高校である。生産食料科では、開放講座、小中学校との連携学習、地域の花壇整備など、地域と密接に関わってきた。KZFに参加しているのは、その生産食料科の生徒。普段から、地域と関わっている彼らだけに地域の問題に敏感に反応した。「農業



広見川流域の立体地図や関連パネルを展示してのアピール活動



水質浄化講座の実施

高校生として自分たちにできること「地域に研究成果を還元したい」そんな思いがKZFには詰まっている。その一つが、水質浄化処理装置の開発である。

鬼北町は、椎茸が盛んに生産されている。その椎茸の収穫後のホダ木には、窒素を分解する微生物が多く住み着いている。また、南予地方は、真珠生産が全国有数の水揚げ量を誇る。問題は、真珠水揚げ後のアコヤ貝の始末。このアコヤ貝には、過剰なリンを吸着する働きがある。さらに、森林の町でもある鬼北町では、放置竹林が問題になっている。その放置竹林を利用し、竹炭を生産する。竹炭には、有機物や界面活性剤を吸着する働きがある。

こうしたホダ木、アコヤ貝、竹炭を用いて川の水を濾過し、浄化する水質浄化処理装置を作り、広見川に注ぐ生活排水溝に設



高校生と徒

置している。これらの濾材は、地元産業、農家から出る自然廃棄物。農村特有の環境問題を農業の力で解決したい。こうした思いに地域も共感し、小学校、婦人会、各種組合、生活改善グループの協力を得て、地域一体となつて広見川浄化活動に取り組んでいる。

そんな、故郷を守るKZFの取組には、県境を越えた高知県からも大きな期待が寄せられている。高知県清流環境課主催の協議会や学会において、河川浄化の実践研究として招待を受け、研究内容を発表している。また、高知県立四万十高等学校や高知工科大学と共同プロジェクトを進めていくことになり、連携の輪が広がっている。



故郷の水を守る展示会の開催

地域を育て、 そして地域に 育てられる

KZFに参加している生徒が私に言った。「環境は守るだけでなく、環境をつくるのが大切だと思う。そして、環境づくりとは、きつと人づくりなんだ」と。それは、水質浄化処理装置の開発や地域との連携など、何も無いものから新しいものを作っていくたり、そこに息づく人々や交わる人々を「作る、育む」ことが、環境保全で最も大切であると実感したからだ。私は思う。その人づくりは生徒自身にも当てはまる。彼らが多くの人々、地域との交わりの中で、試行錯誤し励まし支えてもらいながら、冒頭で紹介した「人間力」の向上に繋がっていったのを...

小学生との水生生物調査



生活排水溝に設置した水質浄化装置

環境を守るため、農業高校生として何が出来るかと考え、立ち上がった彼ら。美しい景色がいつまでも残ることを願い、地域の仲間と共に、最後の清流を支えるべく、情熱を傾けている。